一般社団法人
日本看護系大学協議会
JANPU : Japan Association of Nursing Programs in Universities

2022年12月20日JANPU-CBT2,3月実証校説明会
および「看護学教育における共用試験導入の意義」講演会

JANPU-CBTの目的と趣旨

JANPU看護学教育質向上委員長、JANPU-CBTワーキング 座長
叶谷由佳

2020年度看護学教育質向上委員会の活動（吉沢豊子委員長）

COVID-19に伴う看護学実習への影響調査の実施（大学代表者及び科目責任者対象）

＜調査結果＞

- 臨地での実習中止：全体の74.1%で発生
- 学内実習への変更：全体の80.1%が実施
- 実習施設の変更：全体の37.0%が実施
- 実習施設ごとの学生人数：全体の25.7%が縮小
- 臨地での実習時間：全体の58.5%が短縮
- 臨地での実習時期：全体の46.0%が変更

一般社団法人
日本看護系大学協議会
JANPU : Japan Association of Nursing Programs in Universities

調査結果をふりかえって

✓ コロナ禍で、多くの大学において臨地での実習ができなかった（受け入れを断られた）

海外では、今だからこそとばかりに、臨地に入って、学生が看護活動を行った。

看護学生の感染対策は万全であったにもかかわらず・・・

学生は、なぜ臨地に入れなかったのか？　臨地実習は止めてはいけないと皆が思い、

臨地実習の重要さを再認識した　では今後はどんな実習にすれば？

✓ 代替えという名の学内実習が、臨地でできること,臨地でなくてもできることを棲み分けながら、教育の質の確保、教育効果について考えるきっかけになった

Society5.0時代を迎え、医療の中の変化をとげようとしており、文部科学省はSociety5.0に向けた人材育成に力を入れ始めている。　さらにコロナがDX化を加速させている。　看護学教育のDX化

看護学教育のDX化　何から始めればいいのか？　DX化による教育効果はどうなっているのか

➡ 新たな看護学教育の在り方を検討する特別ワーキンググループの設置へ

2021年度看護学教育質向上委員会の活動（吉沢豊子委員長）

新たな感染症の時代の看護学教育検討特別WGの設置

- JANPU2021年度の重点活動事項として設けられた以下の２つの諮問事項を検討
- **諮問事項１**：看護学臨地実習に関する現状における課題整理・それを踏まえた新たな臨地実習枠組み案の作成
- **諮問事項２**：看護学教育におけるデジタル化への課題整理・DX時代の看護学教育の枠組み案の作成
- 諮問事項１に対し**政策班**、諮問事項２に対し**DX班**、さらに全体会議（親会議）を設け検討した
- 諮問事項１ 政策班からさらに**CBTサブWG**を発足させた.
- 2022年6月諮問事項に対する答申書を完成させた.
  特別WGの独自の答申書であり,今後のJANPU全体での討議が必要

新たな感染症の時代の看護学教育検討特別WG

・各班の諮問事項に関する答申書の概要

政策班：新たな感染症時代の看護教育の課題・解決策整理のためのロジックモデルの作成（課題・解決策・成果,目標）

課題：実習前・卒業時点のアウトカム評価未設定,技術達成レベルの基準がない

解決策：教育評価の定着・普及が必要,これを実施する新しい制度が必要

成果・目標：卒業時点での学生像（イメージ）や評価の仕組みの構築・合意形成、大学卒業時の能力・技術獲得レベルの継続的向上

DX班：①看護学教育における臨地実習の代替えDXの組み立て
②基本的看護技術のDX化と教育アウトカムの指標の作成
③看護学教育におけるデジタル化への課題からの教育選択マトリックスの作成

政策班CBTサブWG：実習前評価を前提としたJANPU-CBT実証事業試行の提案

政策班CBTサブWG

JANPU-CBT実証事業の提案

政策班解決策：**看護学共用試験の導入**のタスク１として、多肢選択筆記試験（Computer Based Testing: CBT）この実現化に向けて、2022年度は文科省の協力を得て、**JANPU-CBT実証事業**の構築を開始する。

目的：①CBT運用の体制・運用方法・運用実施時期・管理運用の試行と今後の検討
②システムのセキュリティ（可用性・機密性・完全性）や操作性、導入費用（ランニングコスト）、継続性、契約形態も含めた媒体としての検討と今後の継続可能性

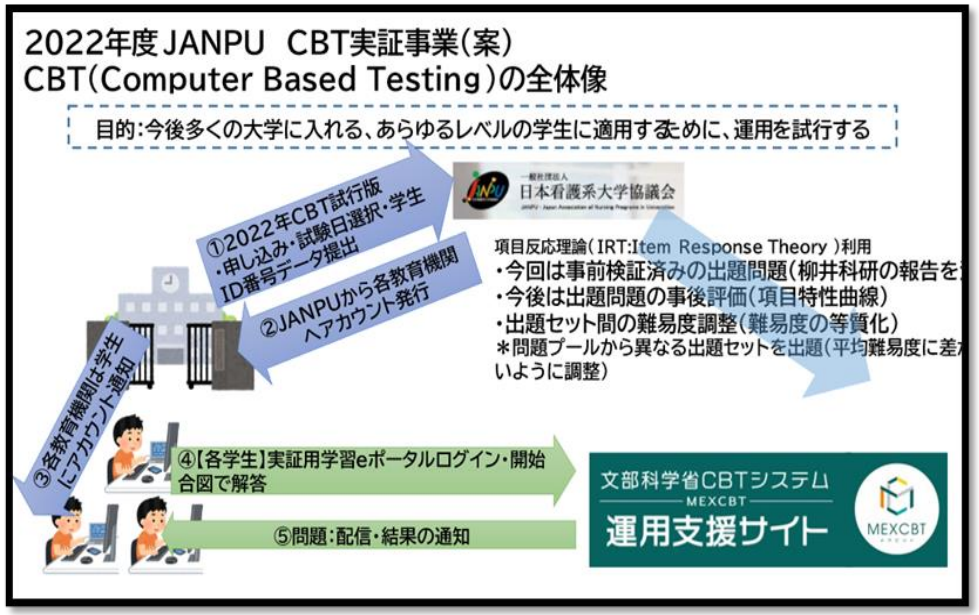
対象者：看護系大学の各領域臨地実習前の学生

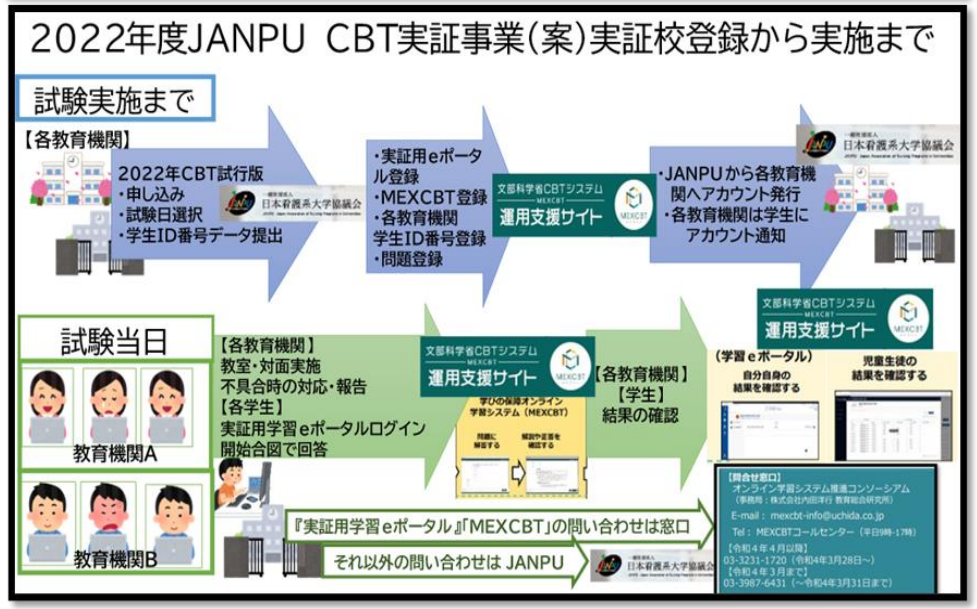
実証時期：2022年9月上旬、2023年2月下旬、3月下旬の合計3回予定

実証校数：実証校15-30校程度

一般社団法人
日本看護系大学協議会
JANPU : Japan Association of Nursing Programs in Universities

JANPU-CBT実証事業





2022年度JANPU-CBT実証事業の管理運用ルール（案）

2022年度JANPU-CBT実施要項（案）

- 実証校側には終了後、CBT開始までの管理　運営に付いて、実施上の問題点などのアンケート・学生においても実施評価アンケートを求める

実証検証案

- 実証校の参加条件は、原則全員受験。学生個人の評価、各大学を評価するものではない
- データ分析：使用した問題の適正把握（項目反応理論を用いて、問題の難易度、識別力のパラメーターの算出・・・）今後の問題作成に利用

2022年度看護学教育質向上委員会の活動

・**活動計画：**新たな感染症時代の実習のあり方について検討する

①臨地実習実施のための臨地実習先と看護系大学との共通指針の作成
②実習前CBTの試行効果評価のための準備と実装
③実習前OSCEの実施可能性を探る

・**JANPU重点事項１**：今後の看護教育のあり方を構想し、具体的な発展の道筋を構築する

①会員校における教育のDX化の促進に資するよう、会員校間の情報共有と協働の方法を検討する
②実習前CBT/OSCEシステムの日本看護系大学協議会版（仮称）の開発を進める
③保健師助産師看護師国家試験のICT化に向けて情報収集する

・政策班、DX班、CBT班、OSCE班、国試ICT班を設け検討している
・CBT班は実習前CBT日本看護系大学協議会版運用システム試行ワーキング（JANPU-CBNTワーキング）を下部組織として設置し、活動している

一般社団法人
日本看護系大学協議会
JANPU : Japan Association of Nursing Programs in Universities

2022年度JANPU-CBTワーキングの活動

・JANPU-CBT実証事業時期：①2022年9月27日、②2023年2月21日、③3月23日

・実証校の募集：2022年8月下旬締め切り

・実証事業の進捗：①2022年9月27日の実証終了（6校223名）
➡アンケート結果を基に、MEXCBTを管轄する文科省総合教育政策局DX推進室とコンソーシアムと協議し、マニュアルの見直し、システム修正確認

↓

②③実証校へ新しいマニュアルにそった説明

＜今後の予定・課題＞

・JANPU-CBT事業継続のための問題作成委員会の設置、問題作成方針の作成
・JANPU-CBT、OSCEが目指す実習前の学生のアウトカムの検討
・目指すべき臨地実習のあり方

↓

「看護学教育における共用試験導入の意義」北村聖氏による講演